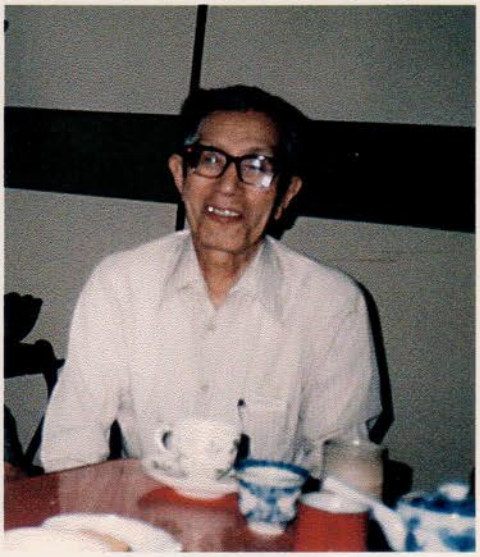
星屑

October 1997
No. 271

熊本県民天文台

星野次郎先生を偲ぶ

宮本 幸男



在りし日の星野次郎氏

十年ひと昔、かれこれ三昔にもなりましょうか、天体望遠鏡や天体写真それに反射鏡の自作について、教えを請いに、福岡市にお住まいの星野先生をお訊ねしたのが先生と私との最初の出会いでした。前もって頂いた略地図を頼りに諸岡のバス停から徒歩で５～６分、ご自宅に作られた四角形の木製ドームが見えたので、すぐ分かりました。門を入ると前庭で15cm 鏡の荒摺りをされていた手を休め「ヤー、良く来ましたね。玄関から入って休んでいて下さい。直ぐ片づけますから」と言われた時の、先生の優しくも清々しい眼が、今私の脳裏に蘇っています。

玄関のドアーを開けた途端、アッと息を飲みました。応接間には旋盤、ボール盤、ツァイス型の小型研磨機、アンビル、そしてソファーには大小のガラス鏡材が何枚も置かれていました。流石と感心し突っ立っていると「座るとこないでしょ、こちらへどうぞ」と、奥様の気さくな声です。お座敷への途中、あの有名な星野鏡を産み出したお手製の研磨機が見えました。覗き込んで眺めていると「遠慮しないで、さあどうぞ」と催促され、美味しいお茶を頂いていると、先生のお出ましで「お待たせしましたね、天文ガイドで貴方の記事は承知しています。良くやってますね」と言われ恐縮したのですが、優しさと厳しさが両立し、その上で尚飄々たるお姿が、強く印象に残っています。

先生は優秀且つ純粋なアマチュア天文家で、1982年にチロ賞（第１回）を受賞されています。それは先生の「望遠鏡や天体写真に関する永年のご研究」の他、アマチュア天文家から要望があれば、高精度でしかも大量の反射鏡を提供下さったことにあるのでしょう。その素晴らしく良く見える反射鏡は６００面を超えていると記憶しています。

その他、多くの門下生を育成された功績は実に大きいものですが、よし子奥様の内助の功も決して忘れることは出来ません。

また先生は、写真に関してのご造詣は深く、カメラも絶対のライカ党でした。天体写真はガラス板に写真乳剤を塗布した乾板（プレート）を常用されていましたが、ちょつと愉快なエピソードがありますのでご紹介しましょう。

時は、天文ガイド創刊の少し前です。当時天文に関する月刊誌は地人書館の「天文と気象」（現在の「月刊天文」）と東亜天文学会の「天界」（長崎書店等でも販売していた）だけでした。誠文堂新光社では、「子供の科学」に夏・冬など天文特集を組んでいましたが、宇宙に対しての一般の関心の高まりに応じ、「天文ガイド」を発刊されることになり、初代編集長にはプロカメラマンの田村 栄氏が決定されました。えっ何で？と思われるかもしれませんが、当時戦後の復興が一段落し、庶民の間にカメラの普及が進み一家に一台と言われるような状況でした。けれどもそのカメラの殆どは35 mm判だったのです。

編集部では35 mm カメラで天体写真が撮れれば、（当時天体写真のサイズはキャビネか手札の乾板が主流でした）天文ファンが増えるに違いないと考えられたようです。そんな状況で編集長にはプロのカメラマンであった田村 栄氏に白羽の矢が立ったということでした。

そこで田村編集長は真っ先にライカ仲間の星野次郎氏に「35mmカメラで天体写真を撮って欲しい」と相談を持ちかけられたのでした。ここからが問題です。

星野先生はフィルムの平面性や粒状性それに像面の狭さから考えても「35 mm カメラで星を狙うのは、まさにピストルでライオンを撃つようなものだから無茶ですよ。」と一応は断られたそうです。けれども田村編集長の切なる再三の願いに、愛用のライカを星に向け、シャッターを切ったところ、「写ったんですよ！僕もびっくりしました。何でもやってみないとわかりませんね。」と言うことから天文ガイド誌は月を追って販売実績が伸びたのだそうです。

日本でのアマチュア天体写真の隆盛、ひいてはアマ天文家の急増という喜ばしい現象は、星野次郎先生と田村 栄編集長の名コンビが産み出した、と言っても決して過言ではないでしょう。

ところで先生は永年天体写真を撮影され、その集大成として昭和46年(1971)恒星社から「星座写真集」を出版され、続いて昭和49（1974）

年同社から天文ライブラリー⑥として「反射望遠鏡の作り方」第２版を出されました。その中の説明用写真の取材で拙宅にもお越し下さったことがありましたし、それから県民天文台の前身の更に前身である初代熊本天文研究会の会長さんであった(故)池田一幸先生ご愛用の「イギリス製１５ｃｍ反射望遠鏡を是非自分の目で見たい」という強いご希望で、星野先生のお供をして永井剛先生と一緒に坪井にあった池田先生のお宅をお訪ねしたこともありました。

1983年6月には皆既日食観測でｲﾝﾄﾞﾈｼﾔ ｼﾞｬﾜ島のｼﾞｮｸｼﾞｬｶﾙﾀに行かれ、ｱﾝ ﾊﾞﾙｸﾓ ﾎﾃﾙに宿泊されました。私も偶然同じﾎﾃﾙで星野先生にお会い出来て嬉しかったのですが、花草清孝氏は星野先生と同じ観測グループで、その時先生は花草氏を丁寧にご紹介下さいました。これが花草氏と私の最初の出会いです。花草台長が清和に来てくれたこと等、何か運命のようなものを感じます。

私も時々先生のお宅にお邪魔し、いろいろと教えて頂き、星野学校門下生のつもりでいますが、時には県民天文台の小林寿郎さんや立川正之さんたちと一緒にお訪ねしたこともありました。その時ご馳走になったピロシキの味を今でも想い起こしては、よし子奥様に感謝しているのは立川さんです。

私は自作の木製赤道儀を使っていましたので、ガイド撮影の際赤経ハンドルを手で回すと振動が伝わってブレてしまうので、やむなくフォノモーターを付けていました。けれども微動が旨く作動せず、1200㎜の直焦点撮影では失敗の連続で、困り果てていましたが、シンクロナスモーターに取り替え、星野先生から教わったメカニカル微動が可能な差動ギアー装置を作ってやっと旨くガイド出来るようになりました。その他水銀灯から出る単一波長を利用した平面鏡の検査法、現在流行始めたロンキーテスト、それから鏡面の荒れを防ぐために紅柄を更に熱処理して酸化させた青黒味を帯びた超微粒子研磨材の作り方など、数え挙げればキリがない程教えて頂きましたが、その星野次郎先生は今天上にいらっしゃいます。「雲の上は星がよく見えるよ」と言っておられるような気がします。

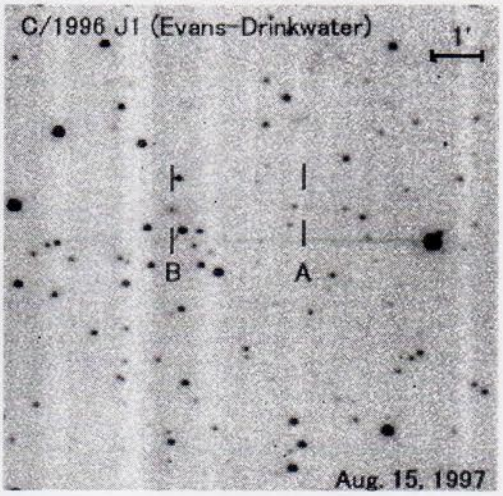
星野次郎先生、天上は寒いかもしれませんから、どうか風邪など召されませぬよう暖かくして、ごゆっくり安らかにおやすみ下さい。

COMET PAGE

Aug. 1997

by Porco Nisse (KCAO)

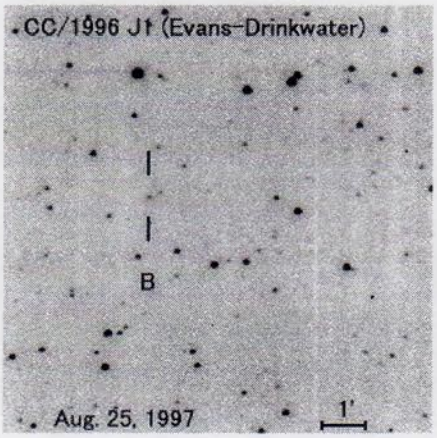
このページは、1997年8月に観測した彗星の紹介です。

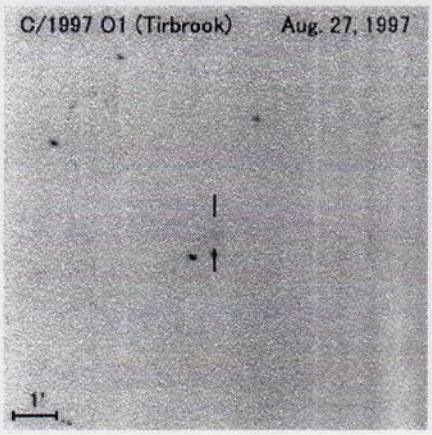


▲ おしどり彗星、それとも三行半彗星！？

本ページの掲載画像をモノクロ反転画像にしました。この形式は星を見るというイメージと合わないので、これまで避けていました。でも、通常画像は孔版印刷では苦労の割には良く表現出来ないことと、原画像はKCAOホームページに掲載することから、反転画像に変更しました。学校や職場などInternet接続が当たり前になりつつあるこのごろですから、それぞれの特性を生かした画像にしたということです。星屑発行に合わせ、ホームページも月に1回更新されます。

さて、巨大彗星「ヘール・ボップ彗星」の後遺症なのでしょうか、何となくけだるさの残るこのごろですね。でも、星空にはホーキ星がいっぱい輝いていますよ。いずれも小さい星だけど、太陽系の立派な仲間と思うと可愛く見えるから不思議です。





☆ C/1996 J1 (Evans-Drinkwater)

前回、番外編でこの彗星がNGC925のすぐ側を通過している画像をお見せしましたとおり、尾を引いた彗星らしい彗星として見えていました。7月には高度が上がって条件が良くなったため、長さは20'以上と報告されています。これは6月30日に地球が彗星起動面を通過したために、尾がもっとも濃く見える条件になったためです。二つ並んで、なかなかすてきな光景でしたが、8月になるとさすがに暗くなりました。とくに核Aは条件が悪いと判別が難しくなりました。

新彗星情報

☆ C/1997 N1 (Tabur)

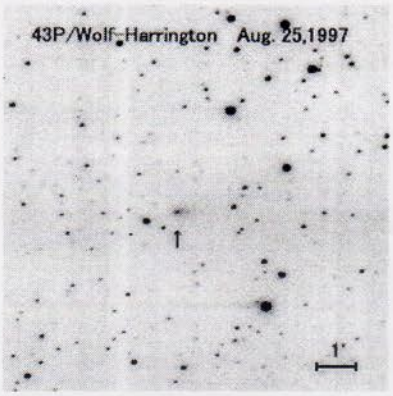
7月2日にTaburが20cmF/4.7反射で発見した10等級の新彗星です。発見後ずっと日本からは見えない空域にいました。近日点を8月15日に通過後、熊本では9月中旬から見えるようになるはずですが、既に消滅している可能性が高いと思います。

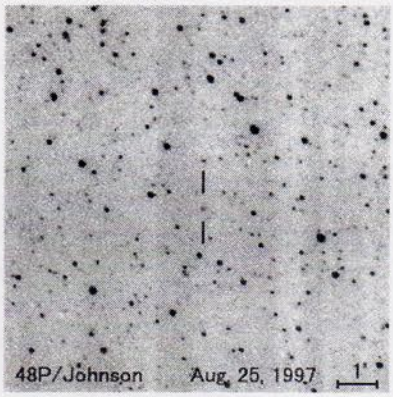
☆ C/1997 O1 (Tirbook)

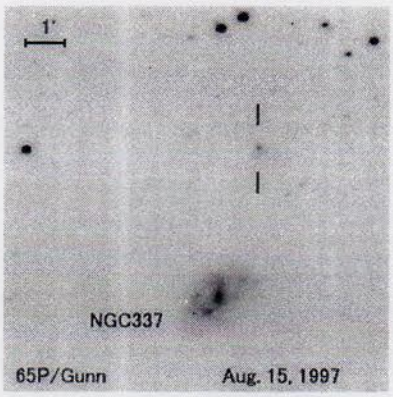
7月22日に J.Tirbrook(オーストラリア)が変光星を観測中に発見した星です。日本からは発見後ずっと西の空低くに見えていましたが、熊本からは異常に晴れない夏空が続いたため、8月27日が初観測でした。尾の見えない小彗星でした。この後も見かけ上太陽に近づくため観測は難しいでしょう。近日点を7月16日に通過した後、まもなくの発見でした。

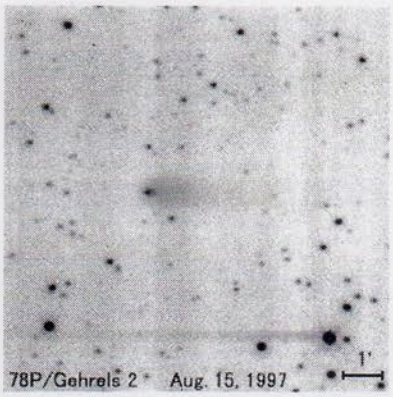
☆C/1997 P2 (Spacewatch)

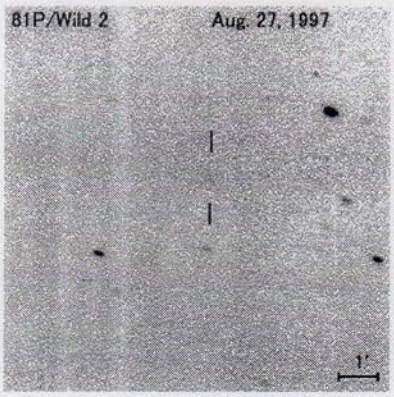
8月12日にSpacewatch望遠鏡で発見された小彗星で、双曲線軌道が計算されています。KCAOではまだ観測していません。

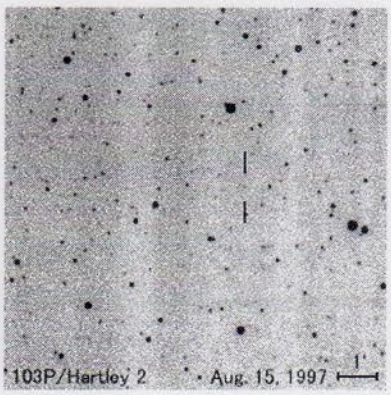


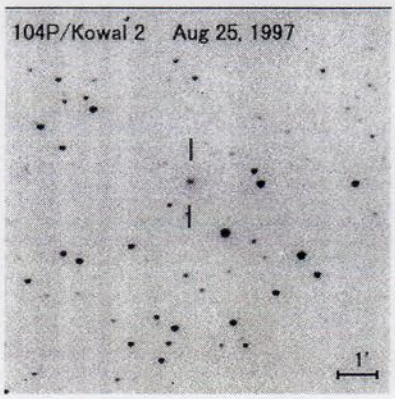


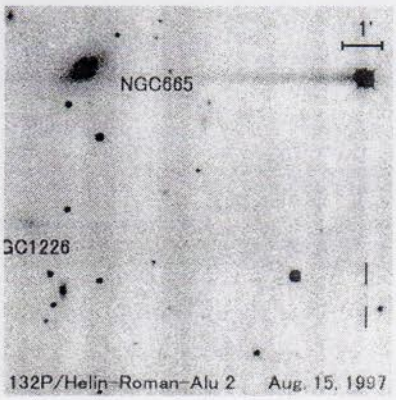












短周期彗星情報

あまり話題になりませんが、夜空にはいつもたくさんの短周期彗星が乱舞しています。冷却CCDカメラが簡単にこれらの星たちを我々アマチュアも見せてくれる時代になりました。

43P/Wolf-Harrington

近日点通過が9月29日のこの彗星は予想通り明るくなってきました。

48P/Johnson

1949年に発見された小彗星で、今回帰の近日点通過は10月31日です。

65P/Gunn

変な形の星雲NGC337に接近した時の画像です。

78P/Gehrels 2

8月7日に近日点を通過しました。地球との位置関係が良くなって予想以上に立派な姿です。

81P/Wild 2

さすがに淡くなりました。

103P/Hartley 2

近日点通過が12月21日の彗星です。その頃、夕空で8等級になると予想されてる、今年一押しの短周期彗星です。

104P/Kowal 2

小さい割には、西に拡がった尾が見えますね。

132P/Helin-Roman-Alu2

1989年に発見された星の初回帰です。132番目の短周期彗星です。

夏休みアルバイト日記

熊本大学天文研究会

中尾達也

熊大天文研究会に南阿蘇ルナ天文台のオーナーの宮本さんから、夏休みにバイトをしないかという話が来たのは、ちょうど夏休みが始まろうとしていたときでした。コンビニでのバイトを6月で辞めたので暇を持て余していましたし、天文の修行にもちょうどいいと思ったので働くことにしました。

天文台のバイトには京都大学の天文研究会からも助っ人が夏休み中に3人来ることになっていて、期間中は僕も合わせて少なくとも2人はバイト要員がいました。仕事の内容としては、研究員の飯山さんと堀井さんを手伝い、お客さんに解説するというもので、僕たちは主に15cmの屈折と15cmの双眼鏡がおいてあるスライディングルーフの観測室のほうで星座の説明なども合わせてやっていました。

僕は去年の秋にサークルのみんなとルナ天文台に来たことがあり、そのときの空がとてもきれいだったので期待していたのですが、働いた合計20日くらいの間で晴れたのは1週間ほどでした。それでもお客さんはとても多く、天気も雨が降るとかいった決定的な状況でもありませんでしたから、曇ってるからといって天文台を閉めておいても、雲の切れ間から星が顔を出し、それを見つけたお客さんに「星見えてますよ。」と突っ込まれるので、しばらくの間、晴れないときのためのプラネタリウムと天文台の両方とも公開するという忙しい日々が続きました。でも、たったひとつの星でも望遠鏡で見せてあげると、とても喜ばれたりするのはうれしいものです。しかし、最近思うのですが、お客さんが帰った後に晴れるというのはどこでも一緒なんですねえ。

そして、昼間は何をしていたかといいますと、御存知のようにルナ天文台にはペ

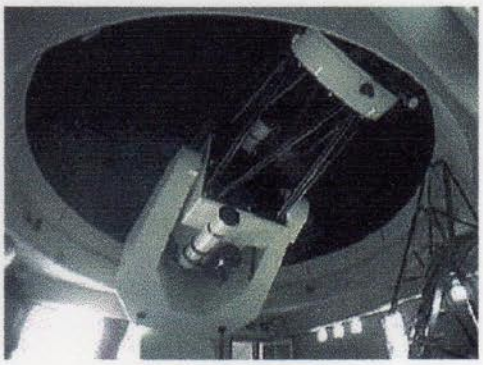
ンションもあるわけで、朝食の準備に始まり、ベッドメイク、掃除、フロントでの電話番など、お呼びがかかればどこにでも行く、まさしく何でも屋状態という、バイト要員にとっては天文台の仕事よりも重要な任務が待っていました。しかも、午後1時からは天文台の公開もやっていましたし、忙しさは半端ではなく、そんなこんなで、昼間はあっという間に過ぎ去り、夕方からは宿泊のお客さんのチェックインや夕食の準備でこれまた大忙し。

キッチンで働いているおばちゃんたちのパワーには圧倒されてしまいました。僕が某ファミリーレストランにいたところをそのおばちゃんの1人に見られていたらしく、次の日にはさっそくその話題が持ち上がりました。こんなおばちゃんたちですから、仕事を頼まれて断れるわけがありません。きっとみんな僕の本業は天文台の仕事だなんて忘れてしまっていたんじゃないでしょうか。

ともかく、修行も兼ねて20日ほどルナ天文台で働いていたわけですが、少なくとも行く前よりは天文に関して、ましになったのではないかと思います。しかし、日曜日から水曜日までと金曜日はルナ天文台で働き、木曜日は以前からやっていた家庭教師、土曜日はサークル＆県民天文台、そして途中にはサークルの夏合宿もありましたから、今振り返っても、楽しくもあり、それ以上に忙しい夏休みだったと思います。

夏休みには勉強しようと言っていた言葉はどこへやら、いつも通りに勉強なんかせず、夏休みが終わった後に残されていたのは、提出期限が迫ってきているレポートの山でした。

ペンション全景



８２Ｃｍ望遠鏡

短期集中連載　びんぼー大学生のパソコン製作日記　～第1回～

熊本大学天文研究会
中尾　達也

インターネット、メール、レポートの作成、と大学でも何かとコンピュータを使うようになって、最初のうちは付属図書館のパソコンを私物化して済ませていたのですが、それでも不便を感じるようになり、ついにコンピュータを自分で持とうと思い立ったのでした。

しかし、いくら安くなったとはいえ、ビンボー学生がそう簡単に買えるようなものではありません。自分で作れば安くできると聞いた私は、さっそく天文台の方々に「なんとかなりませんかね～。」と相談を持ちかけたのでした。

そんなとき、艶島さんがCPU(Pentium-100MHz)とケースを譲ってくれるという話があったのです。2つでだいたい7000円くらいが相場だと聞いた私は、そのまま「7000円でどうですか?」と聞いてみました。すると、艶島さんが、「なっ、ななせんえん!?　だったらもう持って帰る!!」というので8000円まで上げたのですが交渉は決裂し、艶島さんは（怒って?）帰ってしましました。8000円は悪くない値段だと思ったのですが、ひとつ重要なことを忘れていました。そのCPUとケースは艶島さんが手塩にかけてクリーンアップし自分でコンピュータを作ろうとしていたものだったのです。

とりあえず、ケースだけは3000円で譲ってもらうことになり、同じCPU（4000円）と540MBのハードディスク（価格未定…安くして下さいね!）を中島先生から譲ってもらうことになりました。

現在そのケースが天文台に置かれているのですが、1枚の紙が張ってありました。「中尾用　初号機」　そしてその横にはお約束通りに「エヴァ」「零号機」とつっこみが入っています。エヴァンゲリオンを見てない私には何のことか分からないんですが、それをよそに、ケースにエヴァンゲリオンの絵を描いてしまおうという話が周りで勝手に進んでいます…。

ところで、現在ディスプレイを求めております。家にディスプレイが眠っていて譲ってもいいよという方、
961t2556@eng2.stud.kumamoto-u.ac.jp
まで御一報下さい。お願いします。

Ｂ５のたわごと

朝夕めっきり涼しくなってきましたね。食欲の秋到来です。食欲といえば最近のソフトウェアの大きいこと。ハードディスクの中にドカドカ入って、私のパソコンもついにハードディスクがいっぱい・・・。私に似てお腹は細かったので・・・（＾＾；）
ついにハードディスクの取り替えとなりました。それでもそのうち足りなくなるんでしょうねぇ。フロッピィ一枚で昔はたっぷり入ったのに。（あー、古い話）新品を買い換えるか、ぼっちらぼっちら部品を取り替えていくか・・・。どちらにしても、お金がかかりますねぇ。パソコンばかり腹一杯で、私のお腹はグーグーです。

☆１０月の天文現象＆行事☆

２日（木）　新月（０１：５２）

９日（木）　ジャコビニ流星群が極大（１９：００～）
　　上弦（２１：２２）

１１日（土）　土星が衝（１５：０３　光度0.2等）トークアバウト（２０：００～）

１３日（月）　水星が外合（１６：１１）

１４日（火）　十三夜（栗名月）

１６日（木）　土星食（０３：４２）　満月（１２：４６）

２０日（月）　秋の土用（１７：５２）

２１日（火）　オリオン座υ流星群が極大（２２：００～）

２３日（木）　下弦（１３：４８）　霜降（１８：１５）

３１日（金）　新月（１９：０１）

熊本県民天文台機関誌　「星屑」　1997年10月号　通巻271号
発行所　熊本県民天文台事務局　〒８６１－４２
熊本県下益城郡城南町塚原古墳公園内　熊本県民天文台
ＴＥＬ　０９６４－２８－６０６０
振替口座　０１９８０－０－２４４６３
熊本県民天文台事務局　担当　中尾 富作
ホームページ　http://denouken.kmt-technopolis.or.jp/KUMA/KCAO_TST.HTML